

みましよう。今よりも、自然環境、遊び場は恵まれていたはず。残された身近かな自然（遊び場）を子供たち、いや私たち大人のためにも守り、解決していくために、私たちは子供の遊びの意義を理解すると同時に、これからの広義の意味での教育の中で、子供達が、自然の動植物と人間が共存できるよう、努力することの重要性も教えていかなければならないと思います。

### 桜川とその附近の史蹟を探る（第一回）

教諭 永 山 正

いつよりも春べになれば桜川

波の花こそ間なく寄すらめ

紀 貫 之

昔から多くの歌人に詠まれ、又世阿弥元清の謡曲の傑作「桜川」によつて普く全国にその名を知られた桜川は源を岩瀬町山口の鏡の池に発し、桜の名所磯部を過ぎ（謡曲桜川の舞台はここ）加波山、芦穂山、筑波山の西麓の諸水流（筑波の男女の川もその一）を入れ小田城址の南をすぎ新治郡に入り広い谷を開き（尤も筑波附近から下流は鬼怒川の開析谷で鬼怒川西遷後その支流であつた桜川がその開析谷をひきついて流れているもので桜川が開析した谷ではない）真鏡台と高津台との間を流れ、土浦で霞ヶ浦に注いでいる。流程五、六十キロ、古書には筑波川ともいわれていた。

桜川が桜の名所として知られたのは、古くは上流の方